

評価項目			評価結果
A-2 養育・支援の質の確保			
A-2-(1) 養育・支援の基本			
52	A⑦	① 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b
	着眼点	<input type="radio"/> 1 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。 <input type="radio"/> 2 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。 <input type="radio"/> 3 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。 <input type="radio"/> 4 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。 <input type="radio"/> 5 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	
	コメント	<p>■取組状況 職員は入所時の情報共有や寮会議を通じて子どもの生育歴や状況を把握し、課題行動を生い立ちや発達特性によるものではないかという視点を持つように心がけている。受容的・支持的な対応を基本とし、担当制で寄り添ったケアを提供。被虐待体験や分離体験に伴う感情を受け止め、心理療法担当職員や個別対応職員と連携し、スーパービジョンを活用し支援を行っている。第三者評価の子どもアンケートでは、職員の支援を高く評価している。</p> <p>■改善課題 第三者評価の職員自己評価の判断基準では、職員の87パーセントが子どもの理解と受け止めについて十分ではないと応えており、子どもを理解した支援に向けて更なる取組が望まれる。</p>	
53	A⑧	② 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	a
	着眼点	<input type="radio"/> 1 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。 <input type="radio"/> 2 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。 <input type="radio"/> 3 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。 <input type="radio"/> 4 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。 <input type="radio"/> 5 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。 <input type="radio"/> 6 夜目覚めるとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	
	コメント	<p>■取組状況 職員は子どもの基本的欲求を満たすため、年齢や個別の状況に応じた支援を行っている。幼児は遊びや絵本の読み聞かせで安心感を提供し、小学生は宿題支援や個別の会話、高学年児は夜間の個別対応を重視している。誕生日の夕食や買い物を行い、食規模施設では食材買い物への同行を通じて1対1の関わりを深め、子ども会で生活の決まりや自己肯定感を育む工夫をしている。入浴の順番や門限時間等を柔軟に対応し、幼児の部屋は、寮母室に近い場所に配置し、不安解消と家庭的な環境づくりを推進している。</p>	

評価項目			評価結果
54	A⑨	③ 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	a
	着眼点	<input type="radio"/> 1 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	
		<input type="radio"/> 2 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	
		<input type="radio"/> 3 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	
		<input type="radio"/> 4 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	
		<input type="radio"/> 5 つまづきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	
	コメント	<p>■取組状況</p> <p>子ども主体の施設づくりを進め、月1回の子ども会で進行役や書記を子ども自身が務め、生活上の問題や課題を職員の見守りの中で検討している。意見ポストを設置し、第三者委員が評価と回答を行い、子どもの要望に対しては寮会議や運営会議を経て実行可能なものを実施している。小学生には目標達成表を掲示し、達成時には評価と励ましを行っている。失敗体験に対しては、職員が「聴く、寄り添う」姿勢を持ち、相談しやすい環境を整備している。</p>	
55	A⑩	④ 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	着眼点	<input type="radio"/> 1 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	
		<input type="radio"/> 2 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	
		<input type="radio"/> 3 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	
		<input type="radio"/> 4 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	
		<input type="radio"/> 5 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	
		<input type="radio"/> 6 幼稚園等に通わせている。	
		<input type="radio"/> 7 子どもの学びや遊びを保障するための資源（専門機関やボランティア等）が十分に活用されている。	
	コメント	<p>■取組状況</p> <p>施設では子どもの発達段階に応じた絵本や漫画が設置され、余暇時にはピアノや遊具を利用できる。園庭には多様な遊具が整備され、テレビ視聴や携帯電話の使用には時間制限とルールが設けられている。高校生は携帯電話所持前に研修を受けている。部活では小学校3年生以上がバスケット部に所属し、施設内で練習も行っている。放課後の学習支援にはボランティアを活用し、学校との連携も密に行っている。地域活動にも積極的に参加し、地域行事への関与が促進されている。</p> <p>■改善課題</p> <p>携帯所持に伴う諸問題に関しての取り組みは今後も検討が望まれる。</p>	

評価項目			評価結果
56	A⑩	⑤ 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識、及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	着眼点	<input type="radio"/> 1 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。 <input type="radio"/> 2 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え、作っていくようにしている。 <input type="radio"/> 3 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。 <input type="radio"/> 4 発達の状況に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理できるよう支援している。 <input type="radio"/> 5 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	
	コメント	<p>■取組状況</p> <p>「なごみの約束事」として「しなければならないこと」と「してはならないこと」を生活規範や日課表を入所時に説明し、各寮に掲示して周知している。規範や決まりの確認は職員と共に行っている。健康管理として手洗いやうがいやを奨励し、年齢に応じた入浴や洗濯を実施している。怪我や体調不良時は職員に伝え、受診している。高校生の携帯電話使用は「携帯電話契約に関する要綱」に基づき同意し、研修後に所持が許可されている。地域行事や清掃等には積極的に参加し、地域との良好な関係を維持している。</p>	
A-2-(2) 食生活			
57	A⑪	① おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	着眼点	<input type="radio"/> 1 楽しい雰囲気ですり食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。 <input type="radio"/> 2 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。 <input type="radio"/> 3 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。 <input type="radio"/> 4 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。 <input type="radio"/> 5 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	
	コメント	<p>■取組状況</p> <p>子どもたちのリクエストや好みを反映した献立で、食事が楽しみになるよう工夫している。高校受験前日には「力こぶ飯」、試験当日は「なごみ勝負飯」を提供し、メニューには地元産の食材を使用している。高校生は週2回お弁当作りを行い、その他の日はスタッフが作ったものを詰めている。週末には子どもたちが料理やおやつ作りを楽しんでいる。女子寮ではピクニックのように園庭で食事をしたり、男子寮ではお正月に残っている子どもたちと料理を作るなど、男女別で工夫した食事の機会も提供している。週一回は「買い弁」で自分で選んだ弁当を購入し、誕生日には外食の機会も設けている。アルバイトや部活で遅くなる場合には取り置きし、温め直して提供する配慮も行っている。</p> <p>■改善課題</p> <p>残食がほとんどなく、定期的な満足度調査ではほとんどの子どもがおいしいと答えているが、満足度調査の食事時間が楽しいかとの問いに関しては楽しくないとの回答が7人いる。今後、要因を分析してさらなる対応を期待したい。</p>	

評価項目			評価結果
A-2-(3) 衣生活			
58	A⑬	① 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	着眼点	<input type="radio"/> 1 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	
		<input type="radio"/> 2 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	
		<input type="radio"/> 3 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	
		<input type="radio"/> 4 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	
		<input type="radio"/> 5 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	
		<input type="radio"/> 6 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し、購入できる機会を設けている。	
	コメント	<p>■取組状況 子どもたちが清潔で体の成長や季節に応じた服装やTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。年少児と小学生は職員が洗濯し、たたんだものを各自で衣装ケースにしまい、中学生以上は自分で洗濯し、アイロンがけを行っている。洗濯物が乾かない場合は乾燥機を使用している。衣類の補修は自分で行えるよう支援し、衣類管理の習慣を身につけさせている。洋服や靴の購入は年2回、職員と共に出かけ、子ども自身が選んで購入することで自己表現を支援している。</p> <p>■改善課題 衣類について、子どもの思いに配慮し、適切な自己表現ができるように期待したい。</p>	
A-2-(4) 住生活			
59	A⑭	① 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	b
	着眼点	<input type="radio"/> 1 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	
		<input type="radio"/> 2 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	
		<input type="radio"/> 3 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	
		<input type="radio"/> 4 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	
		<input type="radio"/> 5 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	
		<input type="radio"/> 6 設備や家具什器について、汚れたり、壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	
		<input type="radio"/> 7 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	
	コメント	<p>■取組状況 施設は安全点検実施要綱に基づき、安全で安心な環境が整備されている。共有スペースの清掃は職員が行い、居室掃除は子どもたちが土曜日に行い、低学年には職員がサポートしている。定期点検時には、乱れている居室に張り紙で注意を促し、片づけが難しい子どもにはスタッフがサポートし、上手にできた場合は褒めて整理整頓を促している。居室の配置は子どもの希望に合わせて、プライバシーを確保するために部屋の仕切りやパーテーションを工夫している。小規模施設では全室個室で個人の空間を確保している。食堂やリビングは家庭的な雰囲気を大切にし、個人の好みに合わせた提供している。</p> <p>■改善課題 居室間の壁の穴は一時的にカバーがなされているが穴の補修が望まれる。壁の汚れが目立つので、塗り替えの検討が望まれる。</p>	

評価項目			評価結果
A-2-(5) 健康と安全			
60	A⑮	① 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	着眼点	<input type="radio"/> 1 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。 <input type="radio"/> 2 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。 <input type="radio"/> 3 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。 <input type="radio"/> 4 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	
	コメント	<p>■取組状況 一人ひとりの子どもに対する健康管理は、年2回の嘱託医による内科健診や歯科検診で健康状態や発育状況を把握し、要治療の場合は適切な医療機関を受診させている。健診結果は個別台帳にファイルされ、事務室に保管されている。体調不良や怪我の場合、病院一覧表を参考に受診し、職員も同行して情報共有を行っている。軽度の症状は市販薬で対応し、薬はパソコンで管理し、各寮の事務室で鍵のかかる棚に保管している。感染症や事故対応は健康委員会が中心となり、マニュアルが整備されている。</p> <p>■改善課題 心身の健康の観点から健康委員会に心理士も加え、子どもがかかりやすい疾患のマニュアルも作成することが望まれる。</p>	
A-2-(6) 性に関する教育			
61	A⑯	① 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
	着眼点	<input type="radio"/> 1 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。 <input type="radio"/> 2 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。 <input type="radio"/> 3 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。 <input type="radio"/> 4 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や学習会などを職員や子どもに対して実施している。	
	コメント	<p>■取組状況 施設では、年齢や性別に応じた性教育が体系的に実施されている。低年齢向けには絵本を活用し、体に対する不安や他者との距離感を学ぶ機会を提供されている。女子の初潮期には個別プログラムを通じて月経について学び、男子には体毛について教育が行われている。中高校生には外部講師を招いての性教育が実施され、必要に応じて個別対応も行われている。プログラム実施後のアンケート結果をもとに改善を図り、職員向けの勉強会や講習会を実施し、学びの効果を確認している。</p> <p>■改善課題 毎年行われている外部講師による性教育プログラムは子どもたちがより関心をもって参加できるようにさらなる工夫を期待したい。</p>	

評価項目			評価結果
A-2-(7) 行動上の問題、及び問題状況への対応			
62	A⑰	① 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	着眼点	<input type="radio"/> 1 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。 <input type="radio"/> 2 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。 <input type="radio"/> 3 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ、無力感等への配慮も行っている。 <input type="radio"/> 4 くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけて出そうと努力している。	
	コメント	<b>■取組状況</b> 施設では、子どもの行動上の問題に対し、職員全体が「聴く」姿勢で対応している。問題行動発生時には複数の職員が対応し、一人は当事者、一人は周囲の児童の対応にあたっている。状況や対応は記録として残し、寮会議や全体会議で共有され、再発防止策が検討されている。必要に応じて、児童相談所や学校、医療機関と連携し支援を行い、保護者との連絡も行っている。児童相談所との関係強化のため、合同交流会に参加している。	
63	A⑱	② 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	着眼点	<input type="radio"/> 1 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。 <input type="radio"/> 2 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。 <input type="radio"/> 3 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。 <input type="radio"/> 4 大人（職員）相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。 <input type="radio"/> 5 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。 <input type="radio"/> 6 子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	
	コメント	<b>■取組状況</b> 社会的養護施設における子ども間の暴力やいじめ防止の取り組みは以下の通りである。施設では「暴力問題対応マニュアル」に基づき、予防と発生時の対応を実施している。性的加害・被害防止のため、死角となる箇所にセンサーを設置し、幼児や低学年児の入浴時には見守り体制を整備している。施設長らが朝夕の巡回を行い、夜間は2人体制で10時まで配置し、その後1時間ごとに見回りを実施している。職員は日常的に子どもの異変に気づき、問題の未然防止に努めている。問題発生時には会議で改善策を検討し、必要に応じて児童相談所や学校と連携して対応している。また、子どもの特性に応じた部屋割りや座席配置などの配慮も行っている。	

評価項目			評価結果
A-2-(8) 心理的ケア			
64	A⑱	① 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
着眼点	<input type="radio"/>	1 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	
	<input type="radio"/>	2 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	
	<input type="radio"/>	3 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	
	<input type="radio"/>	4 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	
	<input type="radio"/>	5 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	
	<input type="radio"/>	6 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	
コメント	<p>■取組状況</p> <p>施設では、心理的支援を効果的に実施するため、職員間の連携が強化されている。心理療法士を中心に、自立支援計画に基づき定期的な心理ケアが行われ、面接時には適切なスペースと不安軽減のための「めんせつまえのおやくそく」カードが用意されている。子どもの状況に応じて月1～2回の面接が行われ、面接後は情報共有が行われ、統一的な対応が図られている。心理的ケアが必要な子どもには定期的なスーパーバイズが行われ、記録は児童票に記載されている。全職員は定期的にスーパーバイズ研修を受け、心理支援の向上を目指している。また、児童相談所と連携し、保護者への支援も行っている。月1回の心理士連絡会や両児童相談所でそれぞれ年2回の会議で、施設のケアのあり方が検討されている。</p>		
A-2-(9) 学習・進学支援、進路支援等			
65	A⑳	① 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
着眼点	<input type="radio"/>	1 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に添えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	
	<input type="radio"/>	2 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	
	<input type="radio"/>	3 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	
	<input type="radio"/>	4 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	
	<input type="radio"/>	5 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	
コメント	<p>■取組状況</p> <p>施設では、学習支援が充実しており、玄関ホールには書籍コーナーが設置されている。受験生には個室で集中できる学習環境が提供され、小学生は宿題を職員と一緒に済ませた後、遊びに時間を使っている。障害のある子どもには特別支援学級や学校への通学支援が行われ、被虐待児には個別対応職員や心理担当職員が学習支援を実施している。高校生の進路支援は学校で行われ、希望に応じて学習塾活用の援助も行っている。学習ボランティアが週1回来園し、学習支援を行っている。インターネットはオンライン授業に利用され、Wi-Fiと学校支給のIpadでアクセスされている。高校生は携帯電話契約に基づきスマホ使用が許可され、SNSは禁止されているが、必要なアプリは職員が確認して使用している。</p> <p>■改善課題</p> <p>インターネット利用は昨今の教育法においては有効なツールである反面問題も起きやすいので、児童が安全に使用できるようにネット環境の整備やルールの厳守の徹底を期待したい。</p>		

評価項目			評価結果
66	A②	② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	着眼点	<input type="radio"/> 1 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。 <input type="radio"/> 2 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し、支援をしている。 <input type="radio"/> 3 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。 <input type="radio"/> 4 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。 <input type="radio"/> 5 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労（支援）しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。 <input type="radio"/> 6 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。 <input type="radio"/> 7 高校を卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	
	コメント	<b>■取組状況</b> 進路の自己決定支援は、リービングケア・アフターケア要綱に基づき、自立支援担当職員を中心に、寮職員や家庭支援専門相談員が連携し、親の状況を考慮して対応している。進学や就職希望に応じて奨学金制度の説明や職場体験などの支援を行い、退所後も24時間対応可能な体制で継続的なサポートを提供している。	
67	A②	③ 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a
	着眼点	<input type="radio"/> 1 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話しあっている。 <input type="radio"/> 2 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。 <input type="radio"/> 3 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。 <input type="radio"/> 4 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。 <input type="radio"/> 5 アルバイトや各種の資格取得を積極的に奨励している。	
	コメント	<b>■取組状況</b> 職場体験先の拡大として、琉球銀行や琉球コラソン、IT企業などとの連携を進め、高校生にはアルバイトを積極的に推奨している。職員は子どもたちの社会生活スキルやメンタル面での支援を行い、運転免許の取得や金銭出納帳の管理など自立支援に取り組んでいる。運転免許取得希望者には費用免除の協定があり、漢字検定等資格取得も奨励しており、漢字検定受験費用は地域自治会からの助成金も活用している。 <b>■改善課題</b> 社会経験の拡大を目指し、職場体験がなされているが、さらに実習体験先の開拓を期待したい。	

評価項目			評価結果
A-2-(10) 施設と家族との信頼関係づくり			
68	A⑳	① 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
着眼点	○	1	施設の相談窓口、及び支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。
	○	2	家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。
	○	3	面会、外出、一時帰宅などを取り入れ、子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。
	○	4	外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。
	○	5	子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。
	コメント	<p>■取組状況</p> <p>家族との信頼関係づくりは「家族支援実施要綱」に基づき、児童相談所と連携し支援している。家庭支援専門相談員が窓口となり、寮職員や心理療法士と連携して支援方針を説明。保護者との交流は対応マニュアルに基づき、電話や面会、外出・外泊を定期的実施している。保護者に精神的問題がある場合は面接を行い、虐待ケースでは児童相談所での面会もある。外出後には記録提出を求め、帰園時には子どもの様子を確認している。家族への定期的な情報提供を行っている。</p>	
A-2-(11) 親子関係の再構築支援			
69	A㉑	① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
着眼点	○	1	家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ、施設全体で共有されている。
	○	2	面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。
	○	3	児童相談所等の関係機関と密接に協議し、連携を図って家族支援の取組を行っている。
	コメント	<p>■取組状況</p> <p>親子関係支援は家庭支援専門相談員を中心にケース見立てを行い、寮会議から運営会議、全体会議を通じて自立支援計画を作成し、支援方針を明確にして取り組んでいる。家庭復帰を目指し、親子関係の再構築のために児童相談所と連携して家庭訪問を行い、情報を共有している。生活訓練を通じて支援し、一時帰宅で親子再構築関係を実施し、面会や外出、一時帰宅の状況は「家庭訪問調査報告書」などに記録し、職員に共有、取り組み状況は児童相談所にも報告している。</p>	